

公益財団法人 書壇院

## 平成 26 年度事業報告

I	公益事業 1 書道に関する普及啓蒙活動事業	
1	収蔵品の調査研究と貸出・公開	1 頁
2	講演会・ギャラリートーク	2 頁
3	展覧会	3 頁
II	公益事業 2 書道に関する支援・能力開発事業	
1	書道に関する技能能力の審査・認定	6 頁
2	書道教育研究誌の頒布	6 頁
3	次代を担う指導者の育成	8 頁
III	収益事業	
1	事務所床賃貸事業	10 頁
2	書壇院ギャラリー・書壇院ホール賃貸事業	10 頁
IV	その他	
1	懇親会	10 頁

## 【I】 公益事業1 書道に関する普及啓蒙活動事業

### 『1』 収蔵品の調査研究と貸出・公開

#### 1 企画維持管理

- (1) 書壇院が受入れた新規購入及び寄贈品の整理・配架
- (2) 苞竹記念文庫の書庫・収蔵品の整理・管理
  - ① 閲覧図書管理（本の破れ等の修理は平成27年度以降とする。）
  - ② 軸額類のいたみ、破損の点検
- (3) 全収蔵品にバーコードと棚番号のシールを貼付した。現在も継続中。終了後その番号を収蔵品の目録のデータに入力する。
- (4) 書庫にカビが発生したため、平成26年9月よりカビ取り作業をした。現在も継続中である。
- (5) 書壇院ギャラリー展示を後記3のとおり実施した。

#### 2 調査研究

- (1) 明治以前の日本の書の拓本の調査を継続する。
  - ① 釈文の採録については、新たな進捗はない。
  - ② 粗読みを継続中。
- (2) 鐘銘拓本の整理研究は保留状態。

#### 3 展示事業

- (1) 企画展示は以下のとおり実施した。
  - ① 第93回展  
「昭和 中・後期に書壇院を支えた作家」  
会期 平成26年4月8日(火)～6月8日(日)  
吉田苞竹先生書画作品3点と作家作品(漢字、かな、南画)16点を展示した。
  - ② 第95回展  
貫名菘翁展—本邦初 松居遊見叟碑稿四種ついに邂逅—  
会期 平成26年11月2日(日)～平成27年2月1日(日)  
松居遊見叟碑稿四種を含む貫名菘翁の書画作品32点を展示し、図録を発行した。
- (2) 平常展示は以下のとおり実施した。
  - ① 第94回展  
「吉田苞竹展」  
会期 平成26年7月30日(水)～8月31日(日)

- ② 第96回展  
南画展—『書壇』裏表紙に紹介された各家作品  
会期 平成27年2月4日(水)～3月22日(日)
- (3) 第7回「書壇院 日本文の書」展  
会期 I 平成26年6月18日(水)～6月29日(日)  
II 平成26年7月2日(水)～7月13日(日)  
III 平成26年7月16日(水)～7月27日(日)
- (4) 第7回「書壇院展院友作品展」  
会期 I 平成26年9月3日(水)～9月15日(月・祝日)  
II 平成26年9月18日(木)～9月28日(日)  
III 平成26年10月1日(水)～10月13日(月・祝日)
- (5) 「第81回書壇院学生展 高校部授賞に輝く作品展」  
会期 平成26年12月20日(土)～平成27年1月4日(日)

## 『2』 講演会・ギャラリートーク

### 1 講演会

第20回文化講演会を実施した。

演題 「中国人から見た日本人像」

講師 斎藤 文男 先生

(元・毎日新聞記者 中国南京大学 日本語学部 日語専門家)

日時 平成26年6月8日(日)

会場 国立近代美術館講堂

参加者 146名

会費 2,000円

### 2 ギャラリートーク

企画展示・展覧会開催に付随して下記の通り実施した。

- (1) 第53回書壇院竹心展 作品研究会 平成26年4月7日(月)
- (2) 企画展示 第93回展「昭和 中・後期に書壇院を支えた作家」  
平成26年5月20日(火)
- (3) 第7回「書壇院 日本文の書」展  
平成26年6月20日(金)、7月4日(金)、7月18日(金)
- (4) 第7回「書壇院展 院友作品展」  
平成26年9月5日(金)、9月19日(金)、10月3日(金)
- (5) 企画展示 第95回展

貫名菘翁展—本邦初 松居遊見叟碑稿四種ついに邂逅—

平成 26 年 10 月 31 日（金）（報道招待）

平成 26 年 11 月 16 日（日）

平成 27 年 1 月 11 日（日）

(6) 第 81 回書壇院展 平成 26 年 12 月 6 日（土）

## 『3』 展覧会

### 1 展覧会

(1) 第 53 回 書壇院竹心展を開催した。

この展覧会は書壇院展審査会員〈漢字・かな・南画・日本文〉の新作を展示し、出品者は書壇院創始者吉田苞竹の書道理念に共鳴し、各自がそれぞれの道を切り拓き、我が国書道文化の発展に寄与するものである。

会 期 平成 26 年 4 月 8 日(火)～ 13 日(日)

会 場 東京銀座画廊・美術館（銀座貿易ビル 7F）

後 援 全日本書道連盟・毎日新聞社

出品者 書壇院展審査会員

出品料 50,000 円

出品数 168 点（漢字 128・かな 26・南画 11・日本文 3）

(2) 第 7 回 「書壇院 日本文の書」展を開催した。

書壇院審査会員により、「日本文の書」のあり方をさらに追及し、日本語の詩歌、句、文章を書として表現した作品を 3 期にわたり展示した。

会 期 I 平成 26 年 6 月 18 日（水）～6 月 29 日（日）

II 平成 26 年 7 月 2 日（水）～7 月 13 日（日）

III 平成 26 年 7 月 16 日（水）～ 7 月 27 日（日）

会 場 書壇院ギャラリー

出品数 129 点（I 期 43、II 期 43、III 期 43）

出品料 7,000 円

(3) 第 7 回 「書壇院展院友作品展」を開催した。

書壇院展の院友が将来の公益財団法人を支える作家として成長する事を目的とし切磋琢磨した作品を展示した。優秀作には院友展青竹賞を授与した。

会 期 I 平成 26 年 9 月 3 日 (水) ～ 9 月 15 日 (月・祝日)  
 II 平成 26 年 9 月 18 日 (木) ～ 9 月 28 日 (日)  
 III 平成 26 年 10 月 1 日 (水) ～ 10 月 13 日 (月・祝日)  
 会 場 書壇院ギャラリー  
 出品料 7,000 円  
 出品数 111 点 (I 期 37、II 期 37、III 期 37)  
 院友展青竹賞 I 期 (漢字 2 名・南画 1 名)  
 II 期 (漢字 2 名)  
 III 期 (漢字 3 名・かな 1 名)

(4) 第 81 回 書壇院展 (併催 書壇院学生展) を開催した。

① 第 81 回 書壇院展

会 期 平成 26 年 12 月 5 日 (金) ～ 11 日 (木)  
 会 場 東京都美術館 (東京・上野公園)  
 後 援 文化庁・全日本書道連盟・毎日新聞社  
 授 賞 式 平成 26 年 12 月 7 日 (日) 於：東京都美術館講堂  
 公募部門 第 1 部 漢字自運 (265 点)  
 第 2 部 漢字臨書 (186 点)  
 第 3 部 かな自運 (26 点)  
 第 4 部 かな臨書 (19 点)  
 第 5 部 南画 (15 点)  
 第 6 部 日本文 (34 点)  
 第 7 部 篆刻 (12 点)  
 半切部 < 漢字・かな・南画・日本文 > (199 点)  
 公募出品総数 (756 点)  
 役 員 審査会員 (204 点)  
 他に < 他部門へ 38 点 (日本文 34 点・篆刻 4 点) >  
 院 友 (210 点)  
 遺墨作品 (5 点)  
 役員出品総数 (457 点)  
 出 品 料 公 募 第 1 部～5 部 13,000 円  
 公 募 第 6 部～7 部 10,000 円  
 公 募 半 切 部 17,000 円 (表装料込)  
 審査会員 23,000 円  
 院 友 17,000 円  
 褒 賞 審査の結果優秀な作品に内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・  
 (公財) 書壇院賞・全日本書道連盟賞・毎日新聞社賞・特選・

準特選・秀作・褒状・特賞・優作賞・佳作賞を授与した。

② 第81回 書壇院学生展

全国高校生・中学生・小学生の書写能力の向上を目的として作品を募集し、佳作以上に入賞した作品を東京都美術館に展示した。

鑑別料 高校部 2,000円(54点) 小・中学部 1,500円(561点)  
出品点数 (615点)

陳列諸費用 高校部 全紙 6,500円 (30点)  
高校部 半切 5,500円 (24点)  
中学部 半切 5,500円 (115点)  
小学部 半紙3枚つぎ 4,500円 (423点)  
陳列数 (592点)

褒賞 優秀な作品には推薦・特選・金賞・銀賞・銅賞・佳作を授与した。また副賞として文部科学大臣賞・書壇院展会長賞・毎日新聞社賞・書壇院展清泉賞を授与した。

## 【Ⅱ】 公益事業 2 書道に関する支援・能力開発事業

### 『1』 書道に関する技能能力の審査・認定

1 各昇位試験及び書道・南画教授認定試験を実施した。

(1) 『書壇』昇位試験

受験者 42人 合格者 34人

(2) 『書壇』玄位・妙位・雪位試験

受験者 187人 合格者 142人

(3) 書道・南画教授認定試験

受験者 5人 認定者 4人

認定者 1人(無審査)

(4) 『書壇』上位・極位・雅位試験

上位(漢字) 受験者 200人 合格者 86人

極位(かな) 受験者 14人 合格者 5人

雅位(南画) 受験者 6人 合格者 4人

### 『2』 書道教育研究誌の頒布

1 書道教育研究誌である月刊『書壇』及び月刊『学生書壇』の刊行について

(1) 書壇院は、公益財団法人としての理念を体し次の諸事項を実施した。

① 『書壇』・『学生書壇』の誌代を次のようにした。

『書壇』 1部 700円 (消費税込)

『学生書壇』 1部 400円 (消費税込)

② 『書壇』協力員、『学生書壇』協力員の設定

過去1年間(4月号～3月号)に購読又は取扱った冊数がある一定以上に達した指導者(あるいは取扱い責任者)を協力員として姓号(氏名)を誌上に発表し、協力を讃えた。

(2) 『書壇』について

① 月例掲載記事は平成25年度に準じて行った。

② 表紙は書壇院蔵の「古硯」とし、裏表紙は「南画の鑑賞」に随筆を添えて載せた。

③ 「同人参考手本」

条幅・半紙共読者の競書出品の参考となるようにした。

また、2尺×6尺・3尺×4尺の参考手本は、書壇院展・毎日書道展への取り組みを身近なものとし、制作意欲を刺激し、出品数の増加を図る目的で掲載した。(漢字・かな・日本文)

- ④ 「審査会員遊苑」  
『書壇』同人以外の審査会員を対象に毎月課題を設定し、作品制作をすることで書の技倆の向上に資するようにした。
- ⑤ 「篆刻入門」  
同人による参考手本を掲載し、規定と随意を募集した。
- ⑥ 「漢字規定」  
上位・準上位の課題は引き続き唐詩を、玄位～六位及び新規は五言句とした。小字の課題は引き続き古典の臨書を取り入れた。
- ⑦ 「かな規定」  
極位・準極位は和歌又は俳句を、妙位～六位及び新規は同人による参考手本を掲載した。
- ⑧ 「南画規定」  
南画初学講座として同人による参考手本と解説を載せた。
- ⑨ 「漢字臨書規定」  
古典研究として読者の作品制作の糧となるような古典を選び、同人の参考手本(条幅・半紙)と解説を載せた。
- ⑩ 「かな臨書規定」  
極位～二位は古典の臨書とし、三位～六位はその中の一部分を同人の参考手本により臨書させた。
- ⑪ 「日本文の書」  
9月号まで同人による(いろは……)をその後同人の参考手本(条幅・半紙)を掲載し、日本文作品の向上を図った。
- ⑫ 随時掲載記事  
「私の好きな古典」、「『書壇』を支えた人々」、「展覧会案内」、「展覧会報告」、「書壇院日記」その他。
- ⑬ 毎月の出品票の下にその月の清書締切日時を明記し、遅着のないよう注意を喚起した。
- ⑭ 表具店、文房四宝店等の広告をなるべく多く掲載し、購読者への情報提供の拡大を図った。

(3) 『学生書壇』について

- ① 月例掲載記事は平成25年度に準じて行った。
- ② 表紙は徐州漢代画像石よりその年の干支にちなんだ画像を取り上げた。
- ③ 表紙裏に「吉田苞竹書」と「文字の起源」を載せた。



- ④ 「鑑賞作品」は古典の一部を大きく掲載し、やさしい解説を添えた。
- ⑤ 掲載手本  
「毛筆部」 幼児、小1、小2、小3、小4、小5、小6、  
中1、中2、中3、高校 (11種)  
「かな部」 かな中学、かな高校 (2種)  
「硬筆部」 幼児、小1、小2、小3、小4、小5、小6、  
中学・高校 (8種)
- ⑥ 「特待生紹介」、「教室だより」は従来通り掲載した。
- ⑦ 毎月の出品票の下にその月の清書締切日時を明記し、遅着のないように注意を喚起した。

## 2 『書壇』『学生書壇』年間発行について

両誌に改善を加え、魅力ある教育研究誌となるよう一層努力した。

平成26年度は以下のようなになった。

『書壇』年間売上部数	37,287部	前年計画比	1,567部減
『学生書壇』年間売上部数	35,595部	前年計画比	3,579部減

## 『3』 次代を担う指導者の育成

### 1 書道教室の継続実施

書道教室〈漢字・かな・水墨画（南画）〉を月2回（原則として第2週・第4週）書壇院ホールにおいて継続実施した。

書道教室（漢字）	水曜日・金曜日
書道教室（かな）	火曜日・土曜日
水墨画（南画）教室	土曜日
書道教室（子ども）	木曜日・日曜日

### 2 書道講習会の開催

書道講習会（日本文）を平成26年10月5日（日）に実施した。

### 3 書初め会の継続実施

平成27年1月4日（日）に書初め会を実施した。

- (1) 大作揮毫パフォーマンスを行い、揮毫者の意欲の向上を図るとともに一般参加者の書への関心をたかめた。

- (2) 大作揮毫パフォーマンスの作品を、1月中仙石山森タワーショーウインドウに展示した。
- (3) 一般参加者は本院が用意した下敷き、紙、筆、墨液等自由に使って各々書初め揮毫を体験してもらった。
- (4) 参加者の求めに応じて指導・助言を行った。
- (5) 子どもたちには、ささやかな「福引」に参加してもらった。

#### 4 「若竹会」活動の一層の活発化

- (1) 「若竹会」(次代を担う若い世代の会)  
若竹会を年3回<6月7日(土)、8月16日(土)、12月6日(土)>開催した。若竹メンバーが多数参画する方向を目指した。
- (2) 第4回インターネット展の開催  
若竹会の活動の成果を発表するために、引き続きインターネット展を開催した。

#### 5 「大作75の会」の充実

次代を担う中堅世代を対象に作品研究会を年3回<4月8日(火)、10月12日(日)、12月7日(土)>開催し、作品制作のレベルアップを図った。

#### 6 他団体の育成事業への指導協力・支援

- (1) 山形県鶴岡市立朝暘第二小学校(吉田苞竹の母校)書初め会への支援を行った。
- (2) 東京都美術館主催「TOKYO書2015 公募団体の今」展に出品協力をした。

## 【Ⅲ】 収益事業

### 『1』 事務所床賃貸事業

賃貸人公益財団法人書壇院と賃借人森ビル株式会社が契約締結した「建物賃貸借契約書」に基づき、本院が所有する事務所（港区六本木1-9-10 アークヒルズ仙石山森タワー27階部分）床を賃貸した。

### 『2』 書壇院ギャラリー・書壇院ホール賃貸事業

公益財団法人書壇院「書壇院ギャラリー」「書壇院ホール」借用規程に基づき、利用者の使用に供した。

## 【Ⅳ】 その他

### 『1』 懇親会

展覧会・講演会実施に付随して懇親会を開催した。

- 1 「第53回竹心展」懇親会 （参加者 114人）
- 2 「第20回文化講演会」懇親会 （参加者 36人）
- 3 「第81回書壇院展」親睦会 （参加者 89人）

## 事業報告の附属明細書

重要な事項はすべて事業報告に記載した。